



3031  
1



88  
~13  
3031  
1-6



特  
13  
3031  
1

昭和九年  
七月十四日  
購末



北雪  
美談  
時代  
加賀  
見  
新  
牌  
文

外題曲五國色

初編上

為永春水作  
一壽齋國貞画



北雪

美談

時代加賀見  
初編

為永春水作

一壽齋國貞画

目次

若林堂梓



時

代



初編上

若与梓

春水作

國貞書



北せつひきん  
 ちきりひきん  
 初巻の



硯の池の東東へ朝寐の目ざし渡つてより解け七の梅の空陶へ前夜の依ふ  
 北面して雪封れねど最寒しと。朗詠のたれ小獨座の一與是る春の  
 且りけ。昨日の鬼の門禮者も黒羽二重の折目より三筋かまき小唯ゆる  
 鳥道系遊さる紙為の音。白酒の声空船夫等も春の景物とわたり  
 いもさんざり然や僕も試筆紙と若水くち摺る墨おひひ凝らるる小  
 冊の若林堂の預の懇望外題はまるち北雪美談画組時代小慥せら  
 時代鏡と名号しん巻中も聊因つる。岩藤尾上後時のいっくそ又来る  
 歳の初賣紙今う急初仕入是ど書房の店先へ吹込む春風作者の  
 拙にさぐるも一時の新案遣羽子よりもさるる。當つて落ぬの評判婦幼  
 稚兒達小願ふと手鞠拍子小序文くら先祝儀紙か記し。

嘉永八稔卯の春葎市

廣四

鳥永春水述焉



岩藤の  
亡霊

湯尾刀監  
運道子  
同苗安波太郎  
敦連

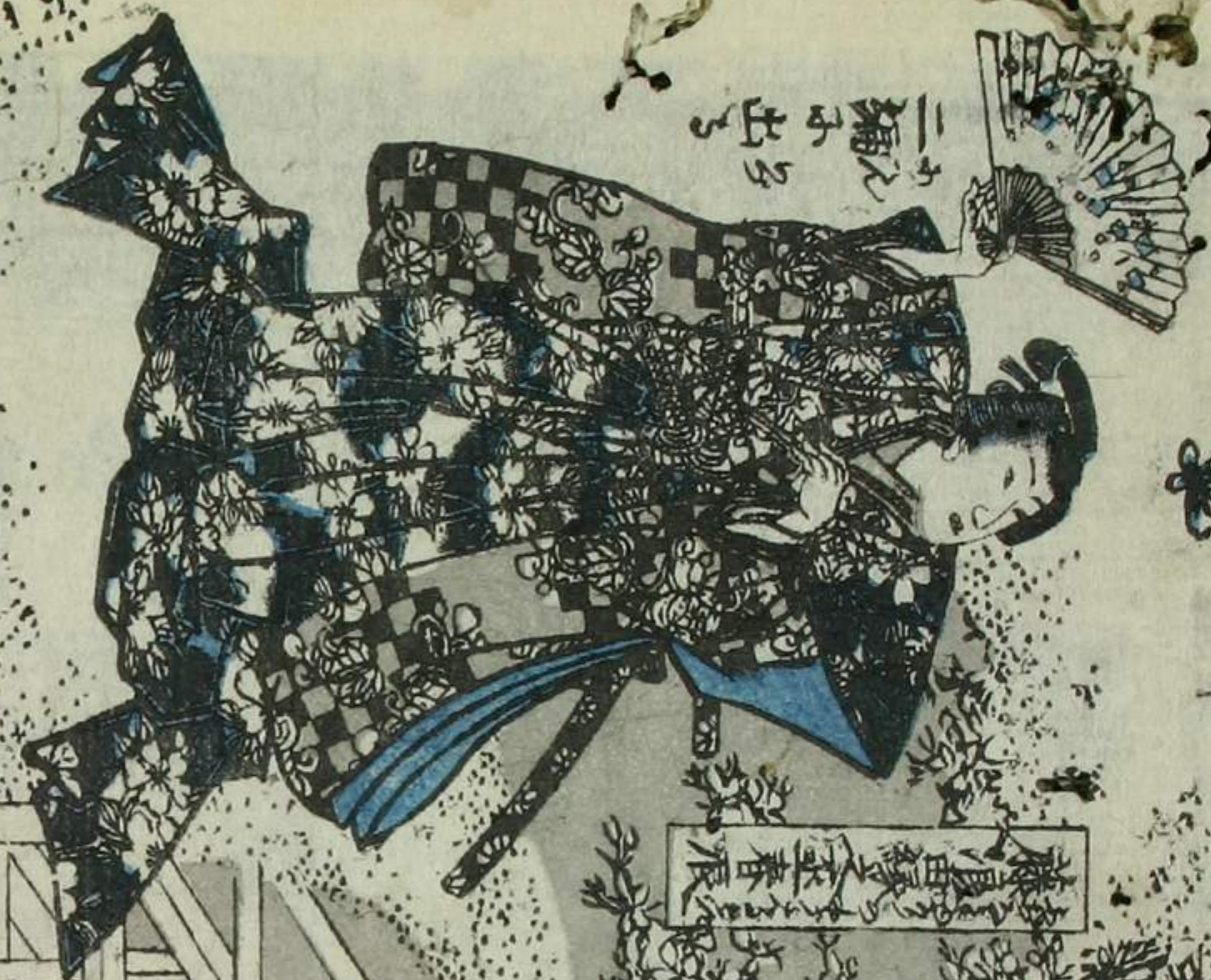
富家  
の一族

初浦  
尾助  
忠次

多賀  
大領  
正方

甲  
代  
初

手  
心  
刀



二橋の女

藤屋の玉春



殿女千尋



吉原の女

中老花江

悪美泥



日あるも... 正... 山...

あつた... 正... 山... 鹿... 山...

あつた... 正... 山... 鹿... 山... 正...



正... 山... 鹿... 山...

あつた... 正... 山... 鹿... 山... 正...

山...







時  
仙  
祿

三





時  
代  
新

七





用  
一  
神



是より左り  
志山道

若紫由可理双六  
光彦作  
國盛画

春水作國貞画

五十三次見立双六  
豐國画  
國貞画

若紫由可理十のむし  
豊國画極上あり

水滸傳豪傑双六  
一勇齋  
國芳画

欽也のあはれ子持方一の  
編み物  
小本敷  
此の品は山

東海道俳諧双六  
應賀校合  
廣重画

厚皮帯半切  
編み物  
奉書坊文符

天地人長久雙六  
應賀作  
豊國画

津新入  
志好

御進物箱入數品

此の御進物箱は好む身念入る御進物  
箱別の中直に奉書坊文符  
少は用向く松飾り奉書坊



東錦繪紙切



初編下

司馬  
若林半季梓





國真画

曾水能

時代如

小坂雲美候

下編

日

三月

梅

中





Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration on the left page.



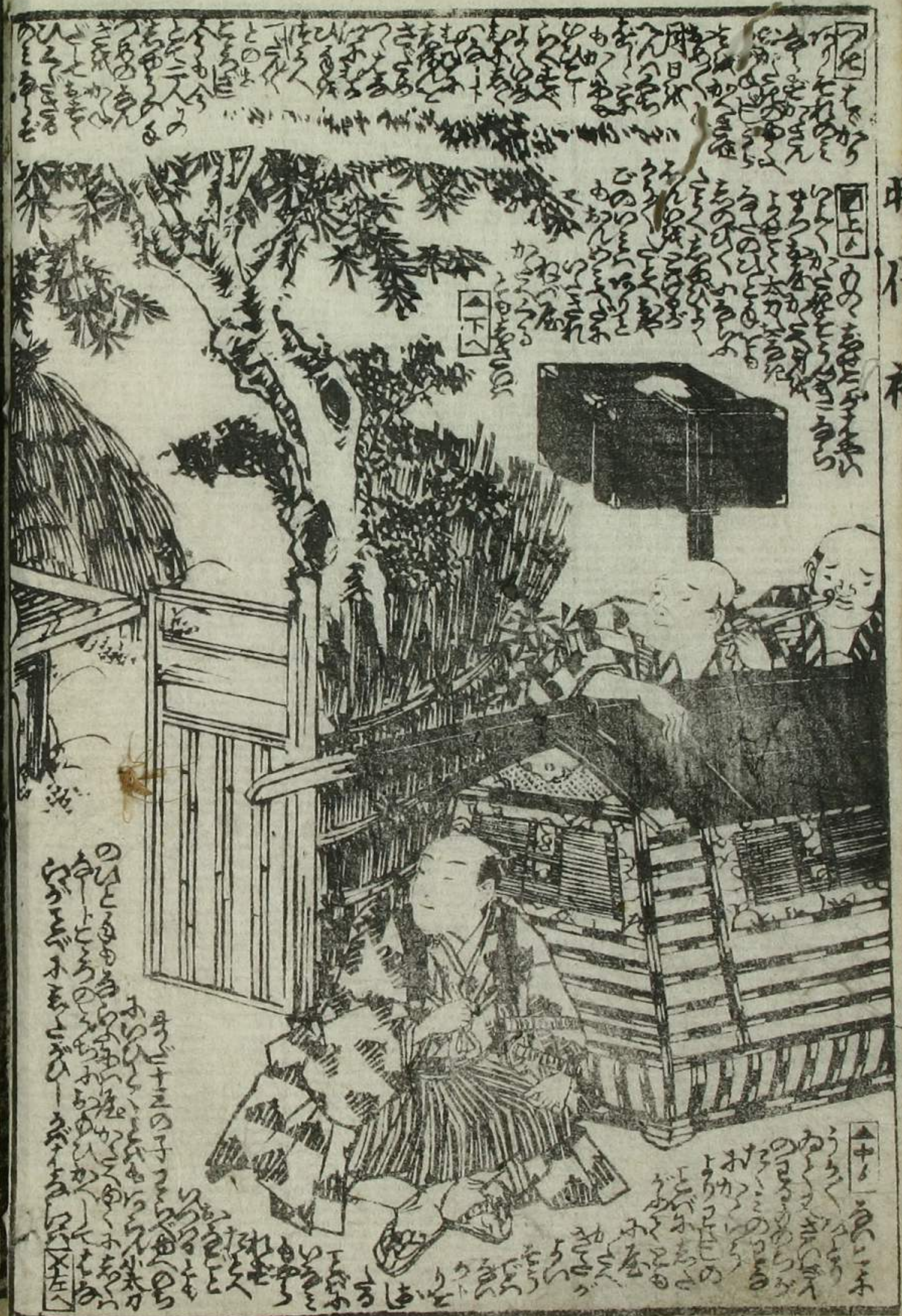
Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration on the right page.



用  
仁  
本

十











Handwritten Japanese text at the top left of the left page, likely a title or introductory text.

田舎の  
Handwritten Japanese text in the middle right of the left page, possibly a scene description or dialogue.



Handwritten Japanese text at the top right of the right page, likely a title or introductory text.

Handwritten Japanese text in the middle right of the right page, possibly a scene description or dialogue.

田舎の  
Handwritten Japanese text at the bottom right of the right page, possibly a scene description or dialogue.

田舎の  
Vertical handwritten Japanese text on the right edge of the right page.

田舎の  
Vertical handwritten Japanese text on the right edge of the right page.



おちおちあまのこす  
はらうちうす

幸三決見立双六

禮因西画

若しと見たり双六

光彦作  
因盛画

天竺人長又双六

心賀さく  
豊田画

水滸傳豪傑双六

因芳画

東海道排諧双六

度重画

右のつれもの双六

智つれ双六

勝刺せり双六

かへらね双六

うり双六



つれもの双六  
智つれ双六  
勝刺せり双六  
かへらね双六  
うり双六

おちおちあまのこす  
はらうちうす  
おちおちあまのこす  
はらうちうす

幸三決見立

双六せん手

大澤新双六

大首の双六

千住双六

つれもの双六

つれもの双六

つれもの双六

つれもの双六

つれもの双六

つれもの双六

つれもの双六

つれもの双六

つれもの双六



おちおちあまのこす  
はらうちうす  
おちおちあまのこす  
はらうちうす





嘉永八年乙卯春新鐫目錄

庭訓武藏鐙

五編 万亭應賀作  
六編 一壽齋國貞画

鄙物語業平草紙

三編 立亭光彦作  
四編 一壽齋國貞画

繪本武勇英名記

全四冊  
壽庵自笑作  
一勇齋國芳画

北雪時代加賀見

初編 為永春水作  
二編 為永春水作  
三編 一壽齋國貞画

地本草紙問屋

若林堂  
芝神明前  
若狹屋與市

為永春水作 一壽齋國貞画

朝鮮牛肉丸 一百孔  
下谷三三三  
對及平丸 深崎氏  
い葉おひくおひちりぬ  
ちりしきりぬしりぬ  
ぬしきりぬしりぬ  
除後氏とよむしりぬ  
四永とよむしりぬ



淨書  
青洲

甲子

三



外題曲多國志

秋川國貞画

一編上





小室み淡河代鏡二篇の上  
若狭板

世小夢多き人あり病健勞逸論せし眼  
閑世則夢む素より夢信むる信まざる  
又信まざる是は多の正夢の淫邪發夢の  
論のこゝと北山盤話よりゆゑ説出さんと  
思ひか。恁と夢の講釈のこゝと這半員  
のこゝとやまらん。基と見戲の策子るこゝ  
ひる長。 世小真名張遺  
まこのの其のこゝの赴向倦く。 諸へ今のの夢を  
言の各々其場へ遊これども。 作者の用心  
薄く似これ。 夢小夢見とやうる。 夏城巻首小録と端文小換の  
嘉永八歳甲の初春 烏水春水誌也

寺七二





再出  
由縁之玉  
春辰



正方の  
内室の  
梅園前

白山雪若  
友冬

湯尾刀監  
連道



船越  
惣吾

長谷部文内  
婿



花哲郎  
ト光

前大領正國の  
愛妾  
早浪



















Vertical columns of handwritten text on the top left of the right page, likely describing the illustration or related items.

Vertical columns of handwritten text on the middle left of the right page, continuing the descriptions.

Vertical columns of handwritten text on the bottom left of the right page, including the large characters '春水作' and '國貞画'.

若紫由可理双六 光彦作 國盛画

五十三次見立双六 豐國画 國貞画

水滸傳豪傑双六 一勇齋 國芳画

東海道俳諧双六 應賀校合 廣重画

天地人長久雙六 應賀作 豐國画

繪半切 千代紙 御進物箱入數品

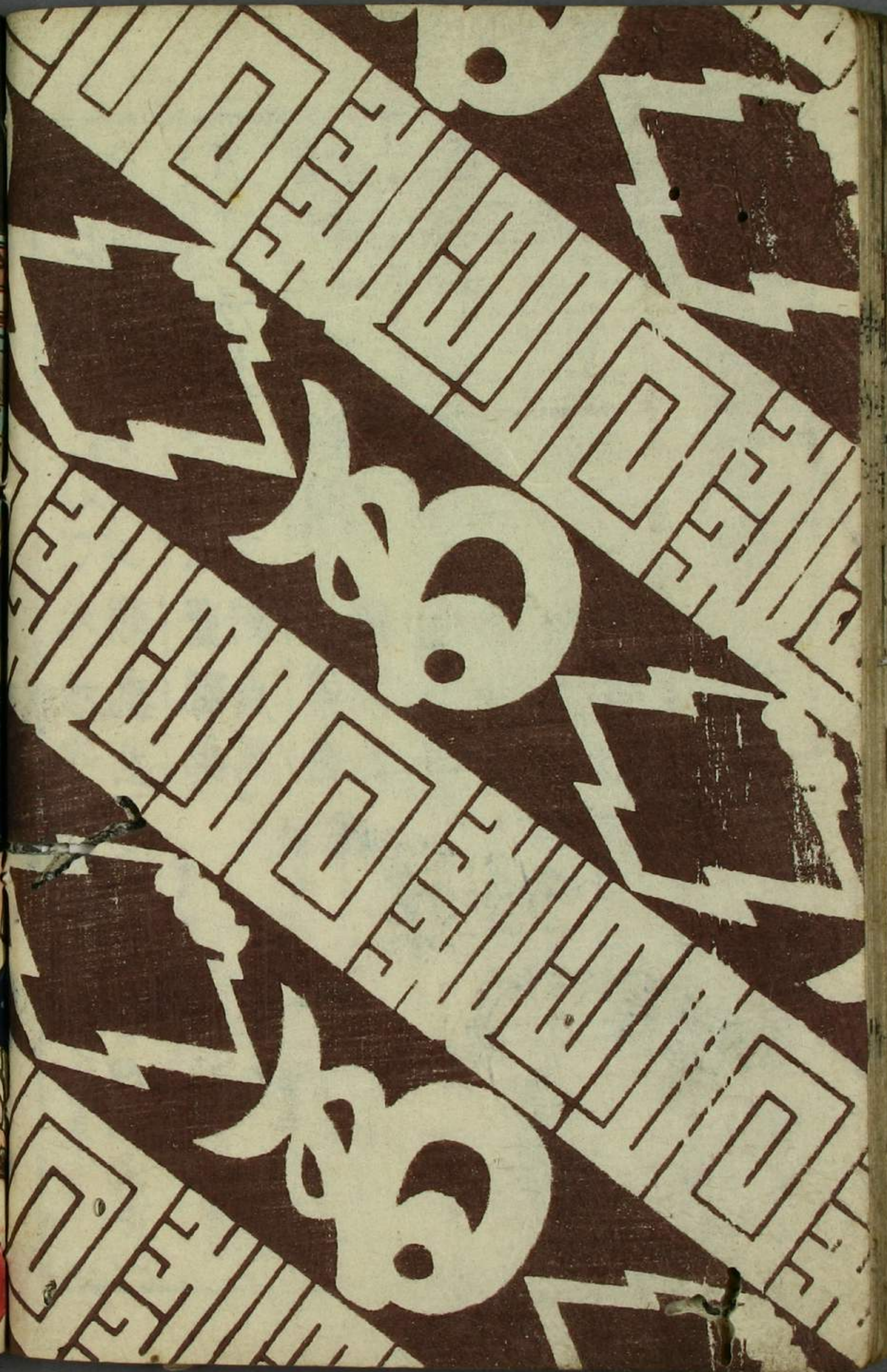
Large block of handwritten text at the bottom of the left page, providing detailed notes and descriptions for the items listed above.

北雪時代加見  
美談



和歌  
邦  
目  
五  
素  
梓

下編二





時代

十一

北雲

美談

時代加々見

春水化

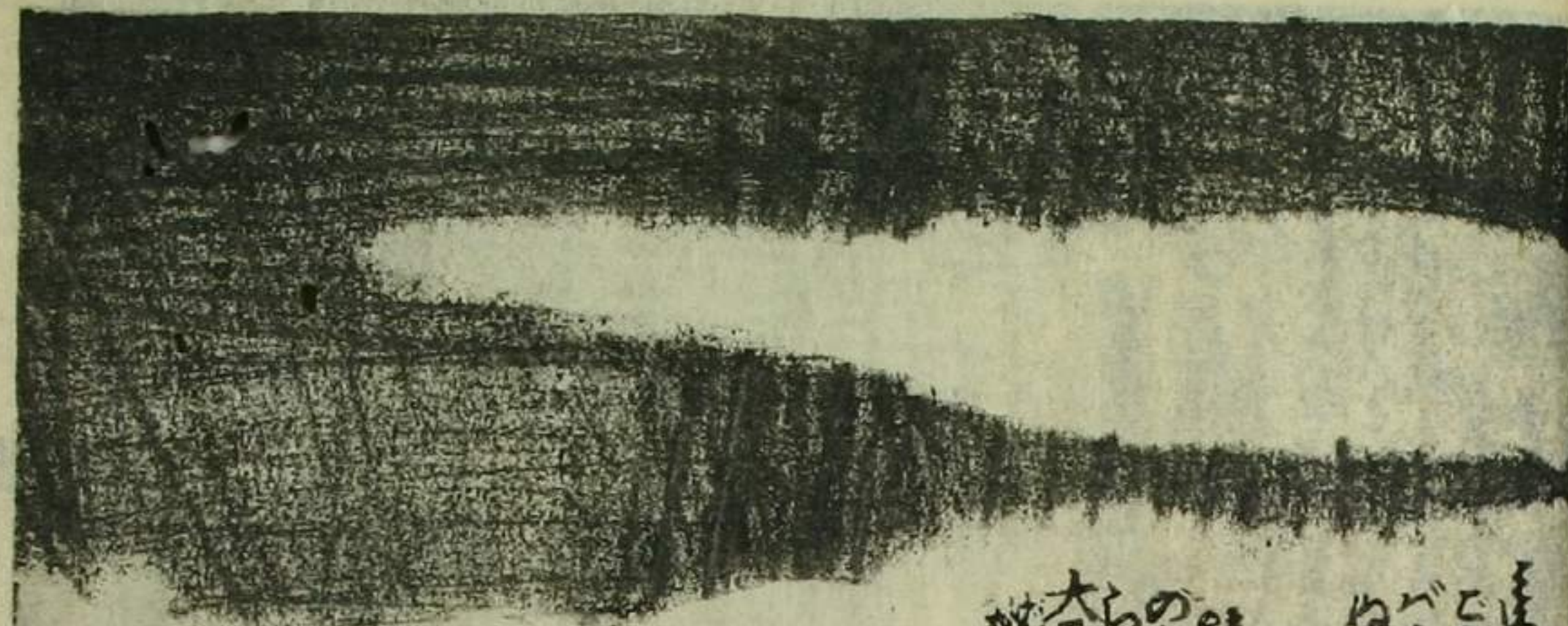
國貞画

二編の下

の林  
文庫







大月 輝武の  
 長女 登美子  
 人 ありし  
 ぬま  
 せんのすめ  
 津の城主  
 正の父 正國  
 正の母 梅津  
 正の兄 正利  
 正の弟 正和  
 正の妹 正子  
 正の孫 正太郎  
 正の孫 正次郎  
 正の孫 正三郎  
 正の孫 正四郎  
 正の孫 正五郎  
 正の孫 正六郎  
 正の孫 正七郎  
 正の孫 正八郎  
 正の孫 正九郎  
 正の孫 正十郎

早浪 登美子  
 正の父 正國  
 正の母 梅津  
 正の兄 正利  
 正の弟 正和  
 正の妹 正子  
 正の孫 正太郎  
 正の孫 正次郎  
 正の孫 正三郎  
 正の孫 正四郎  
 正の孫 正五郎  
 正の孫 正六郎  
 正の孫 正七郎  
 正の孫 正八郎  
 正の孫 正九郎  
 正の孫 正十郎



正の父 正國  
 正の母 梅津  
 正の兄 正利  
 正の弟 正和  
 正の妹 正子  
 正の孫 正太郎  
 正の孫 正次郎  
 正の孫 正三郎  
 正の孫 正四郎  
 正の孫 正五郎  
 正の孫 正六郎  
 正の孫 正七郎  
 正の孫 正八郎  
 正の孫 正九郎  
 正の孫 正十郎

正の父 正國  
 正の母 梅津  
 正の兄 正利  
 正の弟 正和  
 正の妹 正子  
 正の孫 正太郎  
 正の孫 正次郎  
 正の孫 正三郎  
 正の孫 正四郎  
 正の孫 正五郎  
 正の孫 正六郎  
 正の孫 正七郎  
 正の孫 正八郎  
 正の孫 正九郎  
 正の孫 正十郎











Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration of the seated woman. The text is written in a cursive style and is arranged in several columns, some of which are interspersed with small decorative elements or symbols.

Vertical text on the left margin of the first page, possibly a page number or a section title.

Vertical text on the right margin of the second page, possibly a page number or a section title.









地本草紙問屋	美談	繪本武勇英名記	鄙物語業平草紙	庭訓武藏鏡	爲永春水作	一壽齋國貞画
若林堂	北雪	全四冊	三編	五編	爲永春水作	一壽齋國貞画
若狭屋與市	時代加賀見	壽庵自笑作	四編	六編	爲永春水作	一壽齋國貞画
	初編	爲永春水作	一編	一壽齋國貞画		
	二編		二編	立亭光彦作		
	三編		一壽齋國貞画			

爲永春水作  
一壽齋國貞画



朝野群臣 一色  
鮮牛肉丸 百孔  
其味甚佳 且能  
消食 誠爲  
良藥也  
下金丸  
對症 症在 瀉時 製

浄書 青洲

此畫乃國貞所畫 其筆法 極其 精妙 且其 神態 活潑 誠 爲 畫 中 之 冠 也 凡 欲 觀 者 請 向 本 堂 索 閱 可 也



北雪美談  
時代加二見

二編  
春水作

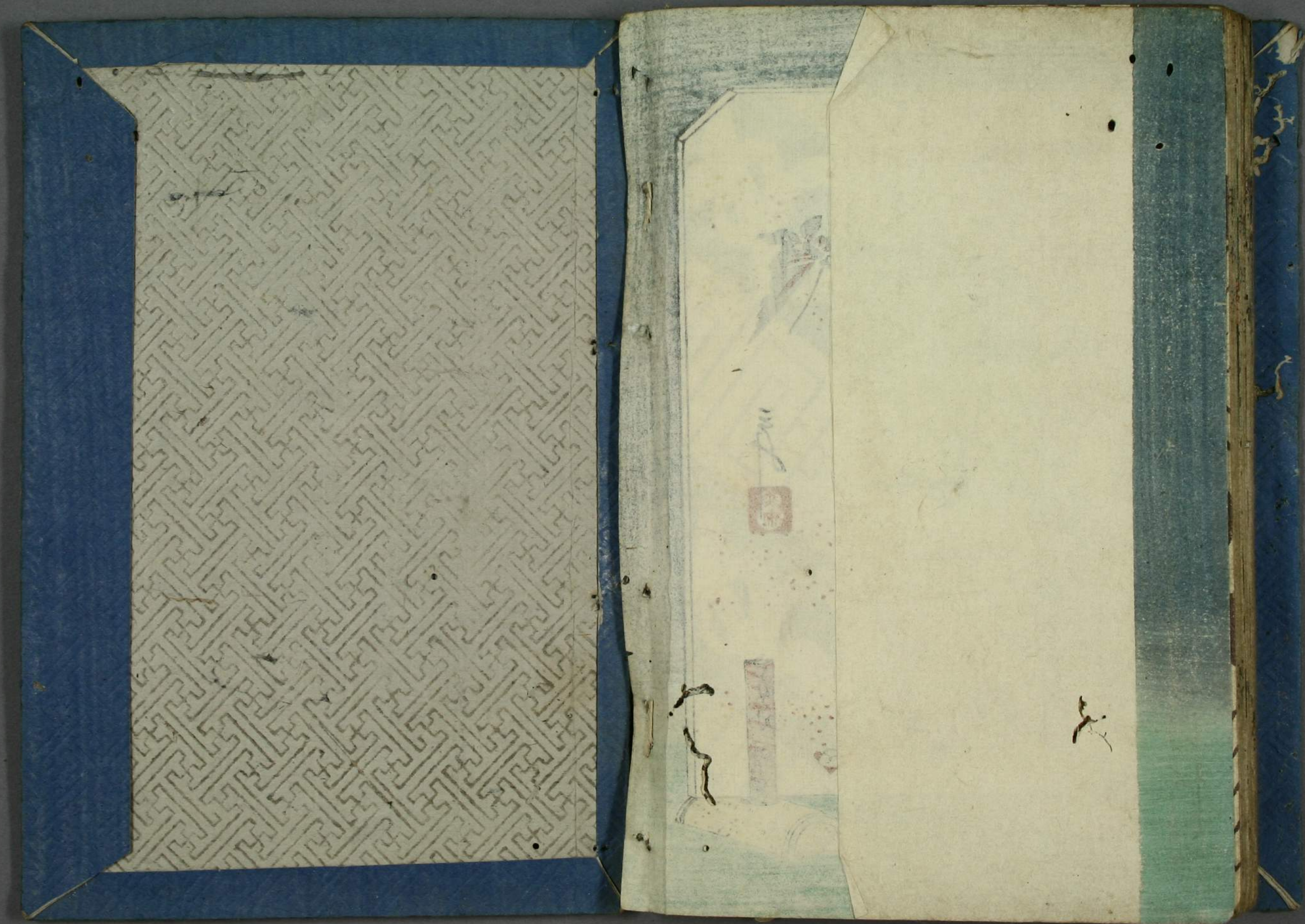
又門  
藏書

周身馬

乙卯年

三月廿一日







三編上

外巻西之因縁



這策子は初編の序子正存光き一言其とあり  
 優世編の口画も初編のさぬ成字も何方様にも  
 筆紙の先物書のか手越年玉の扇子代りも芳物ゆを  
 かく為るかと書林のさるに任せての佳く候しき小冊をねども  
 昔と今をさるる或は十編廿編の長條の行のりも序文をんを余  
 計を物中を一快毎子かろりて出でても優花写河の  
 はしりもその法をぬて付る候を定むは遠く候も  
 序文とあり候かまを濁し  
 為永書水花



寺光三

鶴斎作

時文記



若林堂書板

徳田屋



三國の里  
阿曾比白糸



藤浪  
由縁之丞  
春辰



白糸の  
雛妓  
絲遊

玉琴屋の  
亭主才六



白山  
雪若  
下奴  
關内





珠 什 三













寺代三



明子







北國時代  
美談新史  
卯の春  
加見

為永  
美水作  
一高  
國貞畫

若林  
壽持

三編下











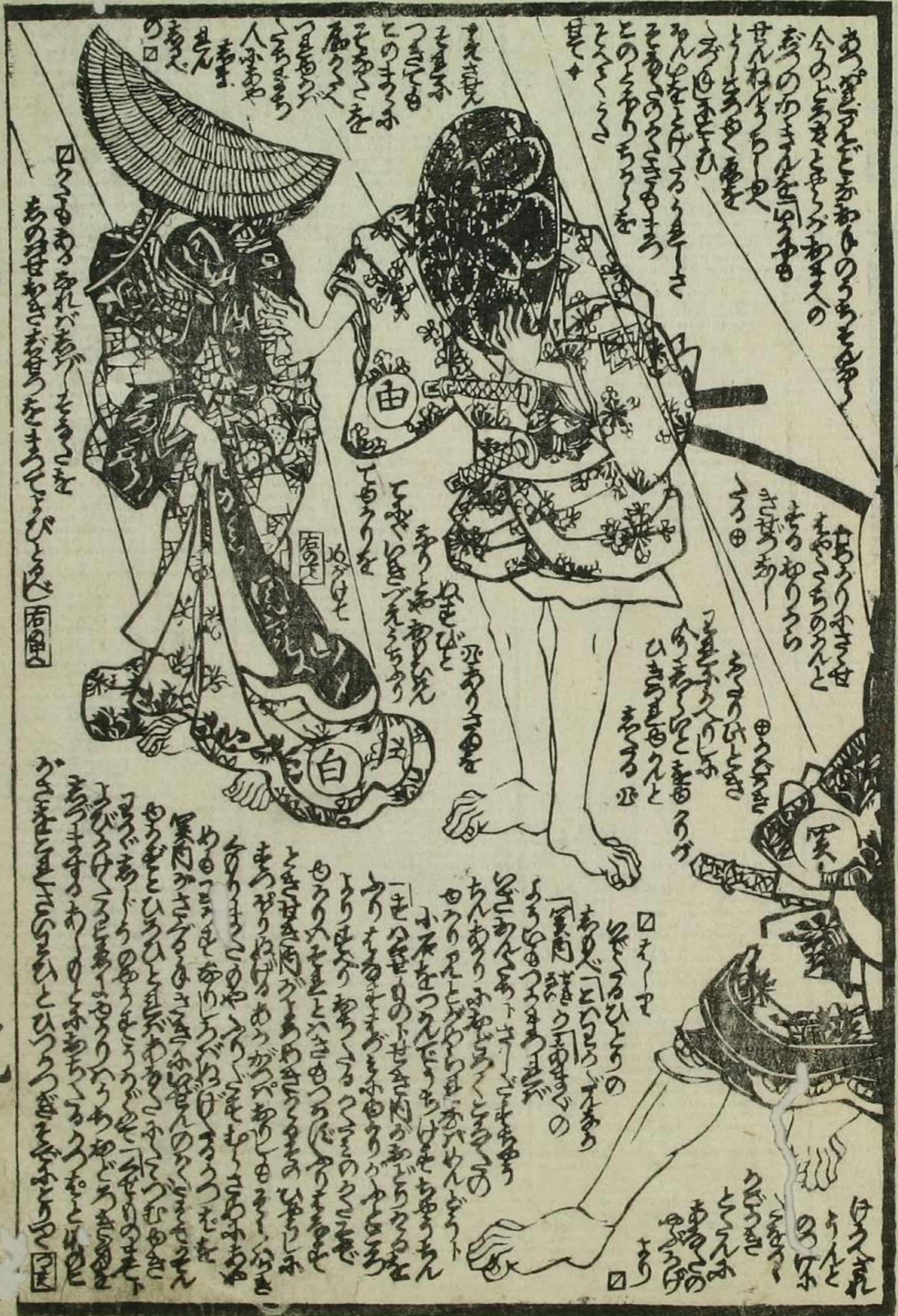


















若水亭  
貞画

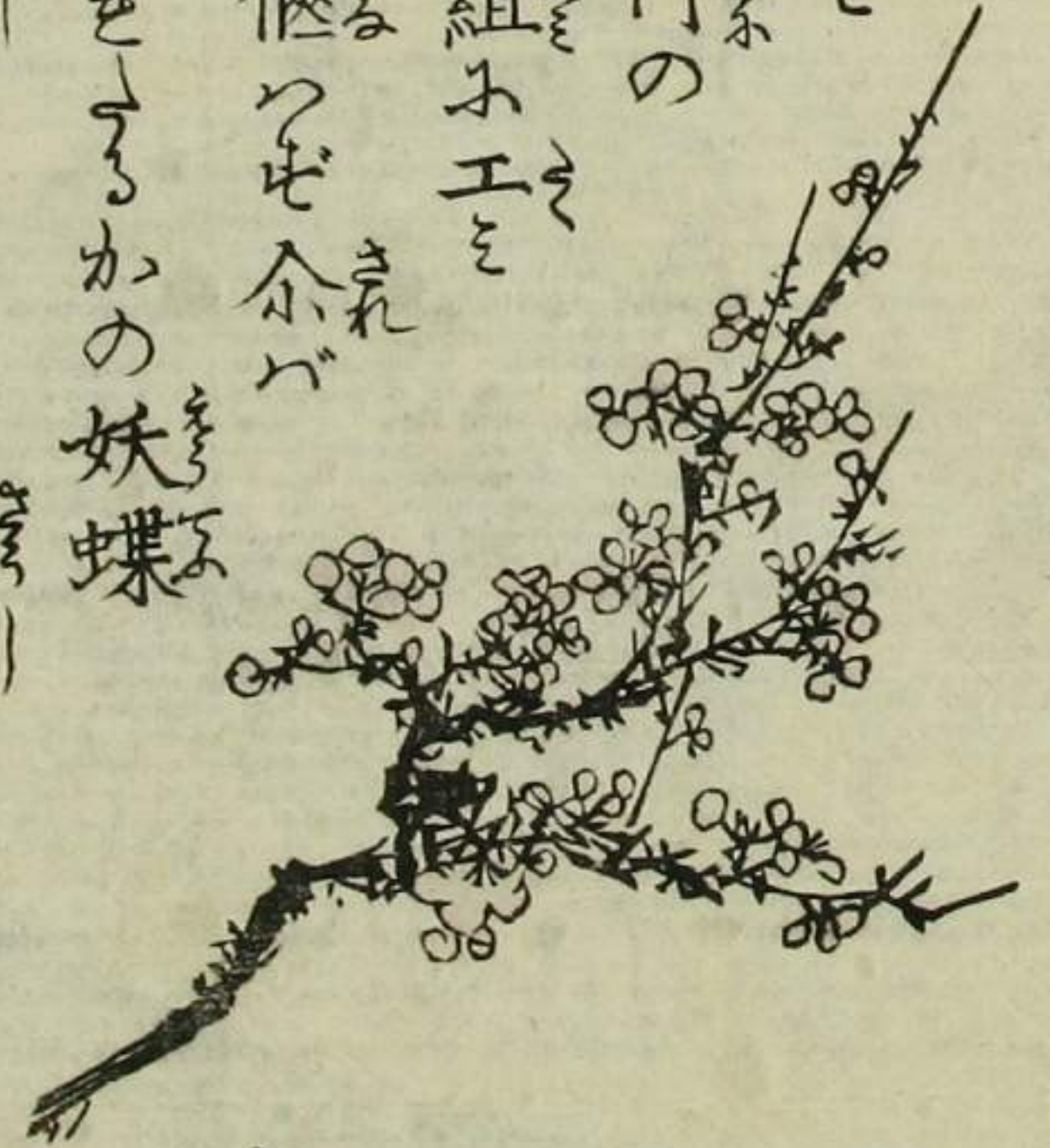
外題要之同

長林  
壽梓

四編上



禪ぜん官くわん者しや流りゆうの根ね原げんの那な蒙もう人じんの  
 寓う言げん小せうるるひ善ぜん惡あく勸くわん懲ちやう戒かい昔せきと  
 未まあれど近ちかき屬ぞくの画え双じゆう紙しの或ある何なにの  
 妖まじ術じゆつとう奇き々々怪かい々々の條じゆう設せつて画え組ぐみ小せう工こうを  
 尽つくさねわ婦ひめ幼この稚ち童どうの御ぎ意い小せう愜げんつて念ねんが  
 由ゆ縁えんが夢ゆめの中ちゆうにて岩い藤ふじ小せう授じゆらせるるかの妖まじ蝶てふ  
 の一段いちより只ただ管くわん蝶てふあらははして莊しやう子し小せうのの策さく子しの  
 上うへ小せう翻はん々々然ぜんとて筆ひつ紙し飛ひ一いつね



安政三年丙辰陽春

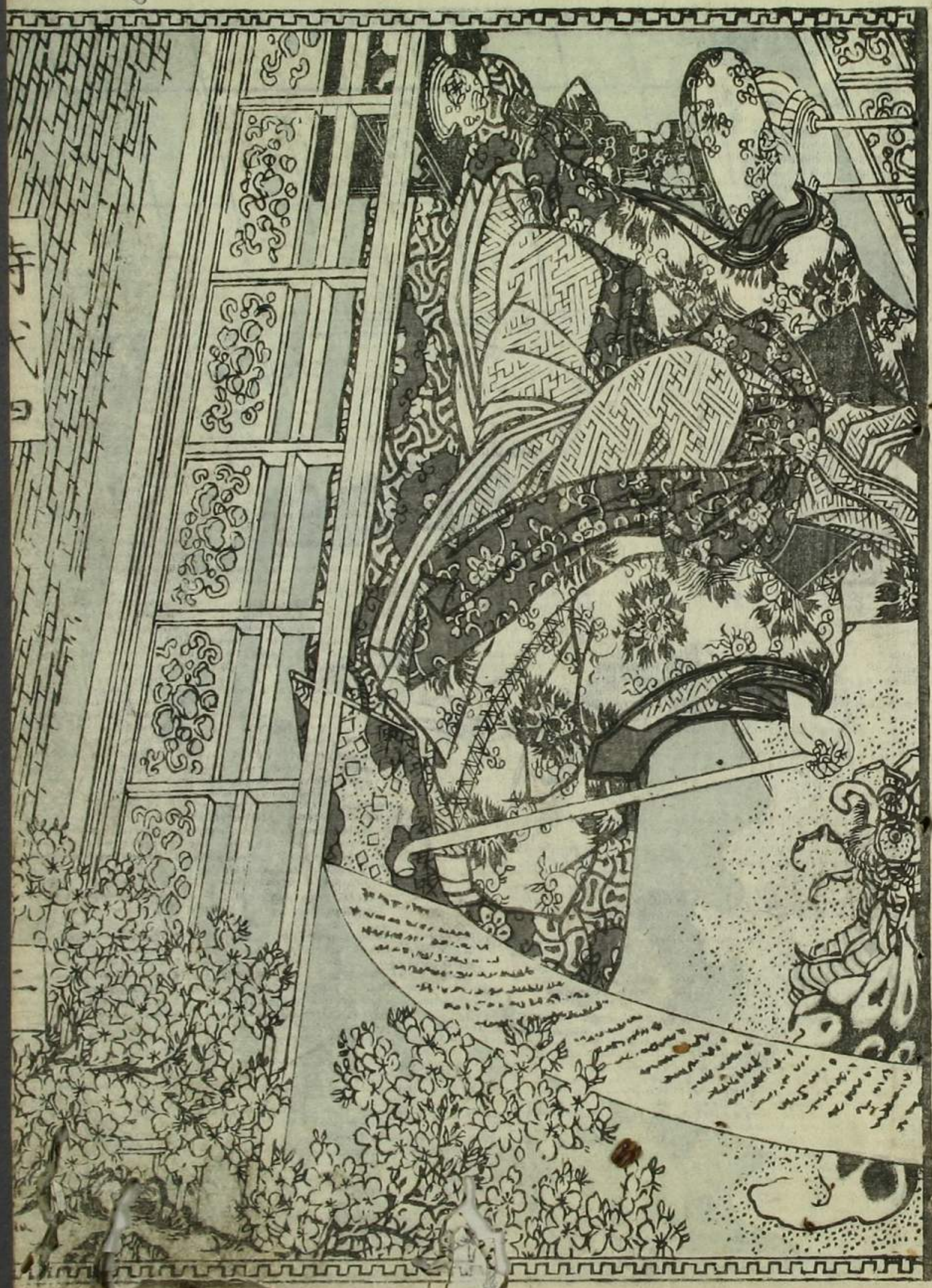
三

為永春水記焉

寺代四



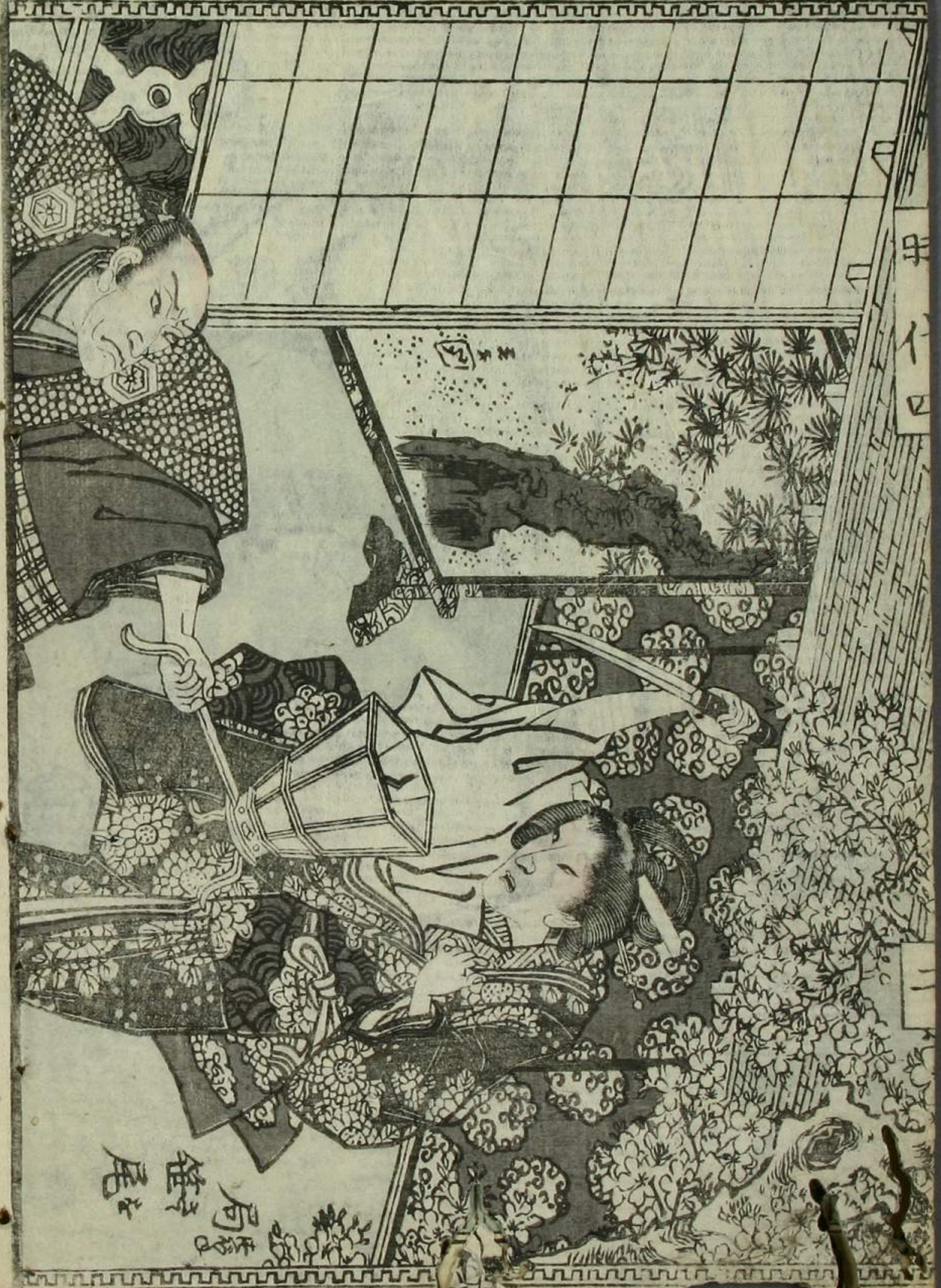
丙辰新



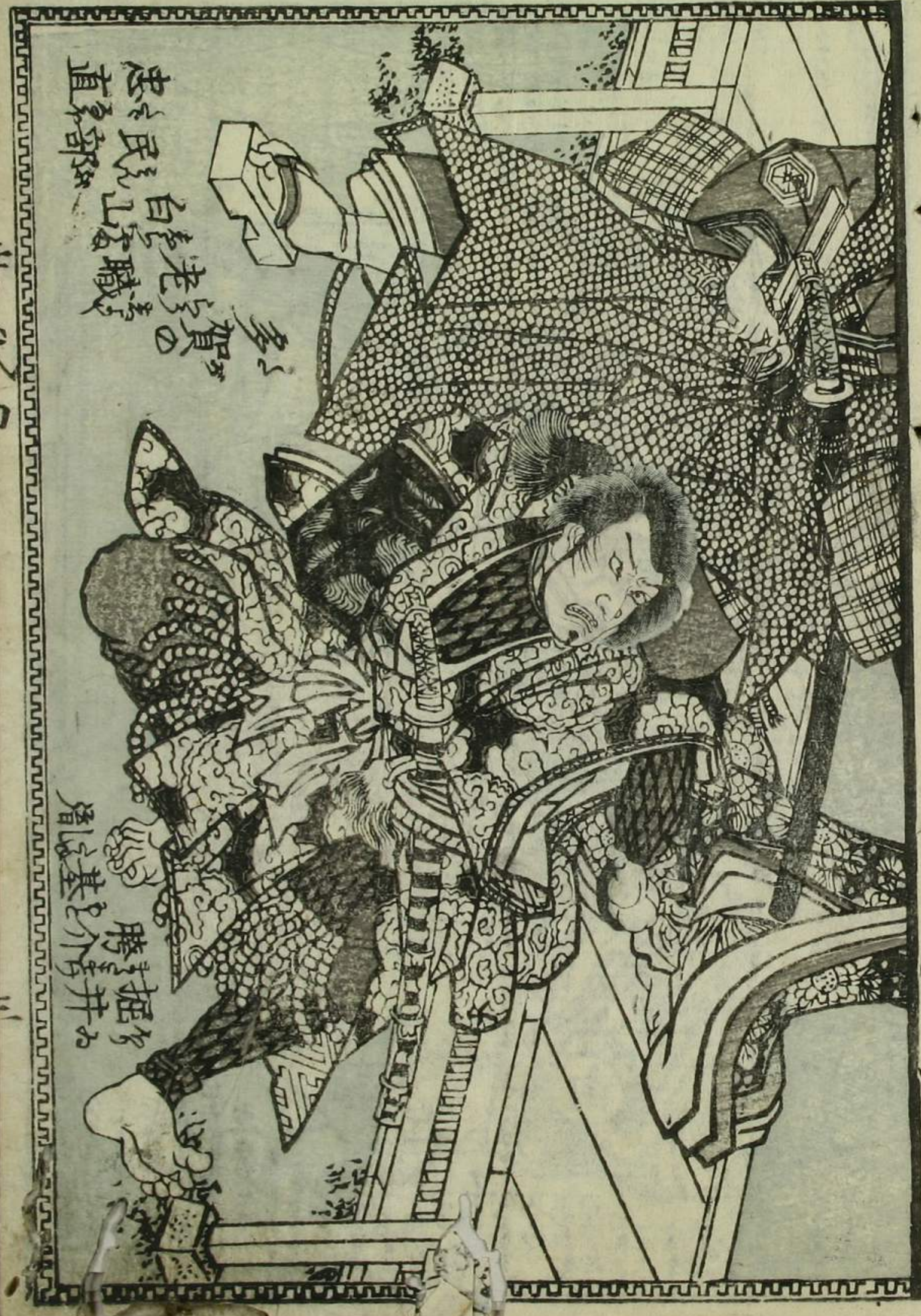
正  
前  
大  
領  
の  
内  
所  
阿  
良  
の  
方

春  
辰  
由  
縁  
之  
巫  
藤  
浪

甲  
午  
巳



尾 燈 局



忠之民 白石 老翁 賀の

贈 基 介 井 加 勝 堀 名

此 乃 也



















春水作國貞画

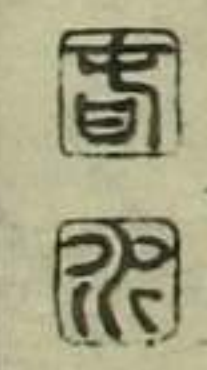
ついで  
 春水の作られたる  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は

○春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は  
 春水作の物語は

美談 時代加賀貞

春水作 國貞画

四編五編の湯尾刀監の正方を毒殺せんと欲する由縁之堅が奸智をもて故意と  
 毒計を破るの段より明神の杜ふかぬて初て由縁が刀監が田中の機密を明とよのり毒婦  
 小笹が出身の趣を述べて正方の目通を小笹が流駒を乗るよりして小笹白糸が試合の一段  
 終り西人召抱られて小笹の毒尾と改名さす白糸の新根とある又かの花坂四郎早辰のり  
 怨念を鴛鴦と知り由縁が奸計を助るの奇談忠臣丹下と謀るの赴き六編八丹下と謀りて  
 自殺させかの鴛鴦の血を以て正方の心を乱させ根を毒とるもの計丹下が養女小秋  
 難差で鳥屋万助が娘思羽が救ふもの可笑なる物語思羽が小秋の夫要之助が  
 戀暮の情態七編八思羽が戀情を募り鶏の姿をとるもの一説白山雪若が何貞の  
 かと相計りて刀監等が隠謀を探るの方便八編九鳥屋万助が鴛鴦を由縁が百  
 両めて買んとしより万助が義侠の一段刀監が計られ、既小大事の破きんとする  
 を由縁が時妖の術をく防ぎいよく多賀の騒乱ふり



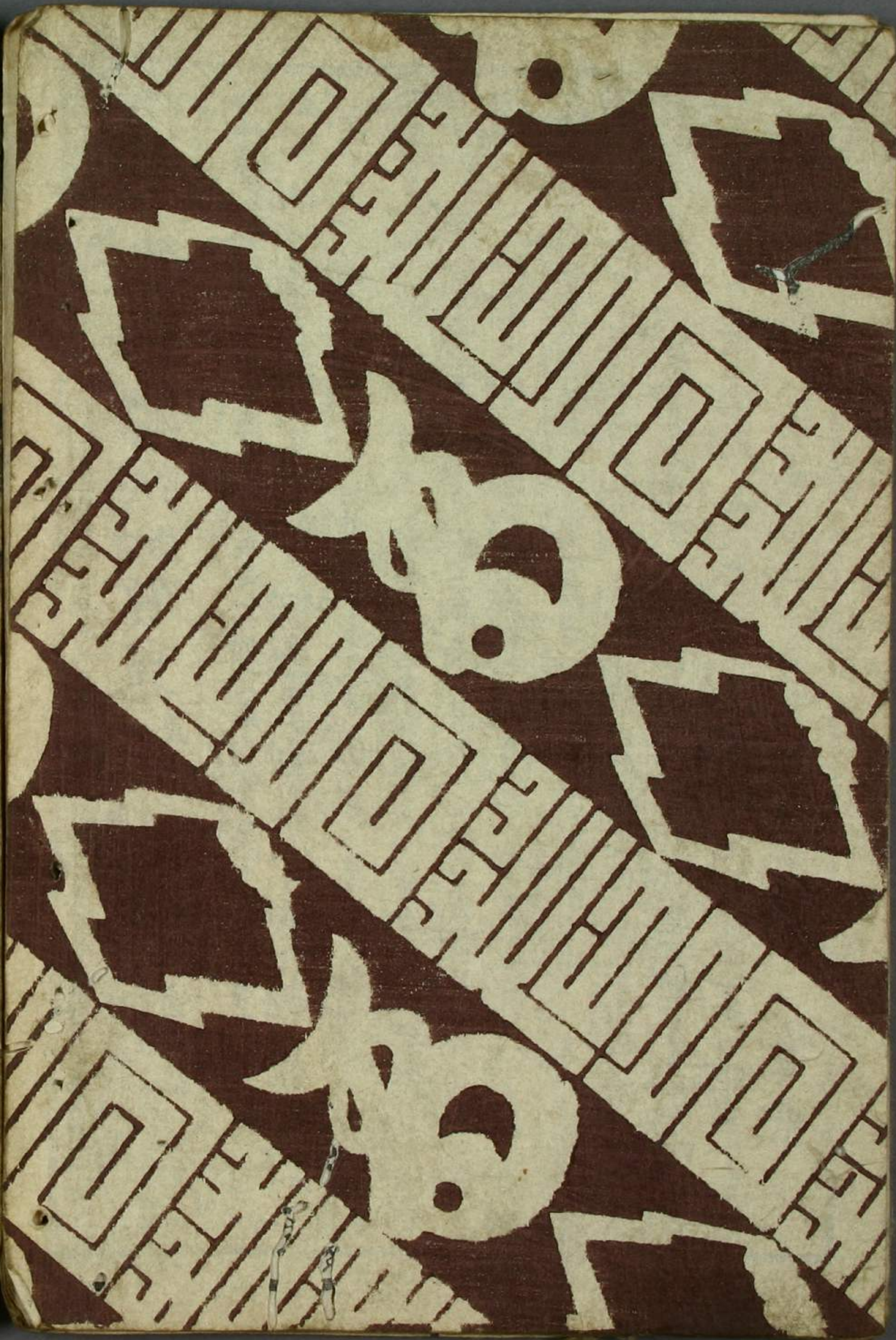




北雪時代加々見  
美談

辰の  
新歴史

下編四

























安夏三年丙辰春新坂目錄

北雪  
美談

時代加賀見

四編  
より  
八編  
まで

為永春水作  
一壽齋國貞画

鄙物語業なき

四編  
光文  
國貞  
画

彦刻武藏鑑

彦實  
編  
世貞  
画

雜談雨夜質庫

初編  
より  
追出板

為永春水作  
一陽齋豊国  
一曜齋國卿  
画

地本草紙問屋

若林堂

芝神明前

若狭屋與市板

朝鮮牛肉丸 一包  
百銅  
身一ひの成...  
せの成...  
き...  
ひ...  
み...

春水作  
國貞画

春水作  
國貞画



春水作  
國貞画





北雪  
美談  
時代加見

五編上

若林堂  
嘉梓

升題曲乃國名



北雪  
美談

時代鏡

第五編

為永春水化

款川國貞画

若林堂梓

吉田

為永春水作  
蝶樓因貞画

若林堂文庫

北雪美談時代鏡  
第五編上之卷



由緒之五

什麼這策子の表題と時代加々見と名号と加々見と鏡字訓  
通へど硝子鏡の最薄紙冊子の中ら見らるる小時代の人情世態と  
うら取らるるものも書賣の需小寸間合鏡の急業の木鏡も  
淡々一糸の多條と長々と引伸鏡小為るる前後の起向の混乱  
を丹処と這処と衣はまます結び合せ紐鏡をの鏡の愚多  
身成次貞の見返らむ作者の不見せつけで畏接

鏡の大き多額自惚鏡と  
御見物の曇らぬ鏡と  
お吐き物打粉で磨く古鏡も  
聊光と出さる

安政三年辰暮春發布  
為永春水誌る



早瀬ヶ妻



坂四郎が妻

甲  
作  
五





寺

大領  
正方

正後  
方之  
愛の  
根の  
方

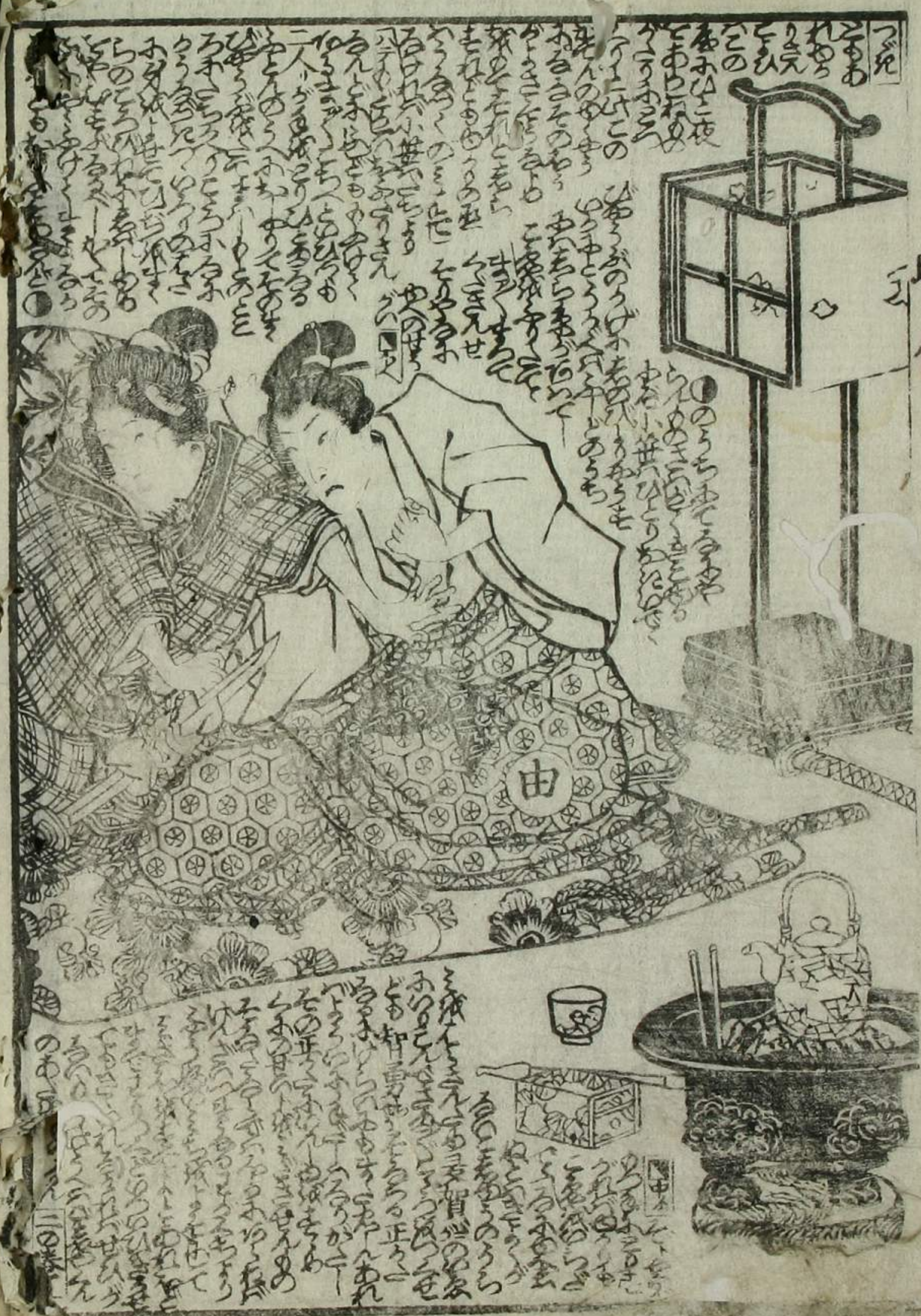
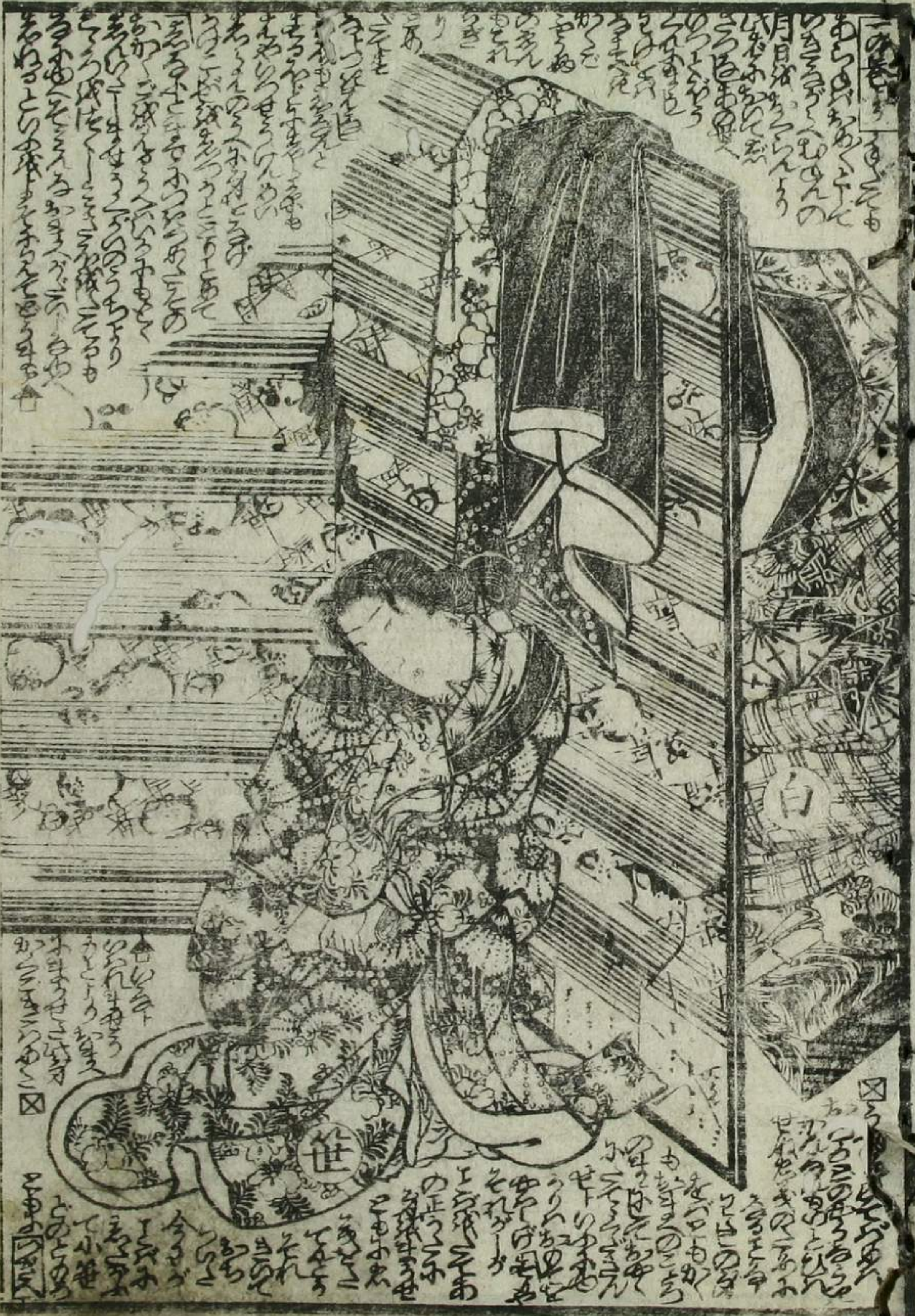


甲  
什  
五

白願  
糸城







時代五











# 春水作國貞画



此中老翁  
 尾崎と申す  
 又申す  
 名はこれ  
 菅根と  
 名はこれ  
 菅根と  
 名はこれ  
 菅根と

## 新雪 時代加賀貝

春水作  
 國貞画

四編五編の湯尾刀監が正方に毒殺をまんと做つる由縁之丞が奸智をもて故意に  
 毒計を破るの段より明神の杜ふかぬ初由縁が刀監が晋中の機察を明とよひて毒婦  
 小笹が出身の趣を続て正方の目通を小笹が丸駒に乗せりて小笹白糸が試合の二段  
 終小兩人召抱られて小笹の尾と改名を白糸の荊根とる又又かの化花坂四郎早浪が  
 怨念を鴛鴦とり由縁が奸計を助るの奇談忠臣丹下と謀るの丹下六編の丹下と謀りて  
 自殺をかの鴛鴦の血を以て正方が心と乱さむ林根を妾とあむの計丹下が養女に計  
 難哉と鳥屋万助が娘思羽が救ふの可笑むの物語思羽が小秋の夫西多と  
 戀慕の情態七編の思羽が戀情を慕り鶏の姿をその一説白山雪若の何れ  
 かと相計りて刀監等が隠謀を探るの方便八編の鳥屋万助が首を由縁が口  
 西みて買んとし小より万助が義侠の一段刀監が計られ既ふ大事の破るを  
 由縁が蝶妖の術をく防ぎいよ多賀の騷乱する

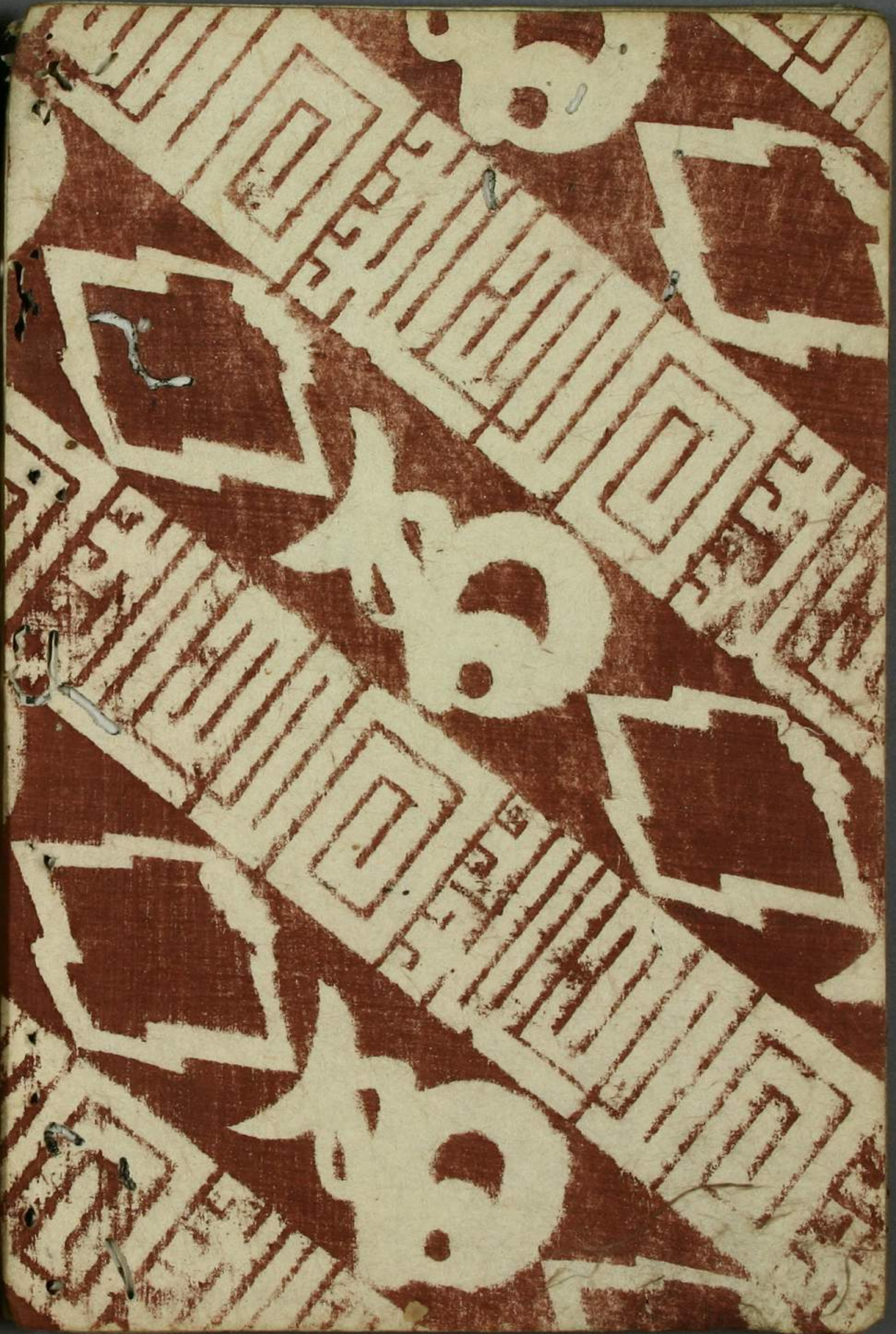
國貞



為永喜水化  
款川國貞画

五編下

新喜舞  
款川國貞画





寺代五

白糸更

柳根と喚ぶ

白

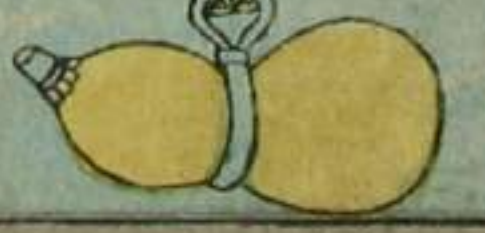
白  
世  
改て  
世  
唇と

世  
池  
月  
池  
月  
池  
月

北  
五篇  
下  
水

多  
女  
以  
ら  
れ  
た  
あ  
の  
う  
ら  
ま

芝  
林  
の  
あ  
の  
枝  
を  
よ  
う  
と  
お





早稲の穂は  
 風に靡く  
 水鳥の鳴き  
 渡る  
 舟の櫂  
 漕ぎ進む  
 月夜に  
 静かなる  
 水辺の  
 光景



舟の櫂  
 漕ぎ進む  
 月夜に  
 静かなる  
 水辺の  
 光景





Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration. The text includes characters such as 由 (Yū) and 田 (Ta).



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration. The text includes characters such as 佳 (Ka).

年 甲 午 五





甲子年

五



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a preface or introductory text for the illustration.



Additional handwritten Japanese text at the bottom of the left page, possibly a signature or a note.

Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the top part of the illustration.



Additional handwritten Japanese text at the bottom of the right page, possibly a signature or a note.

Vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or a title.











上編六

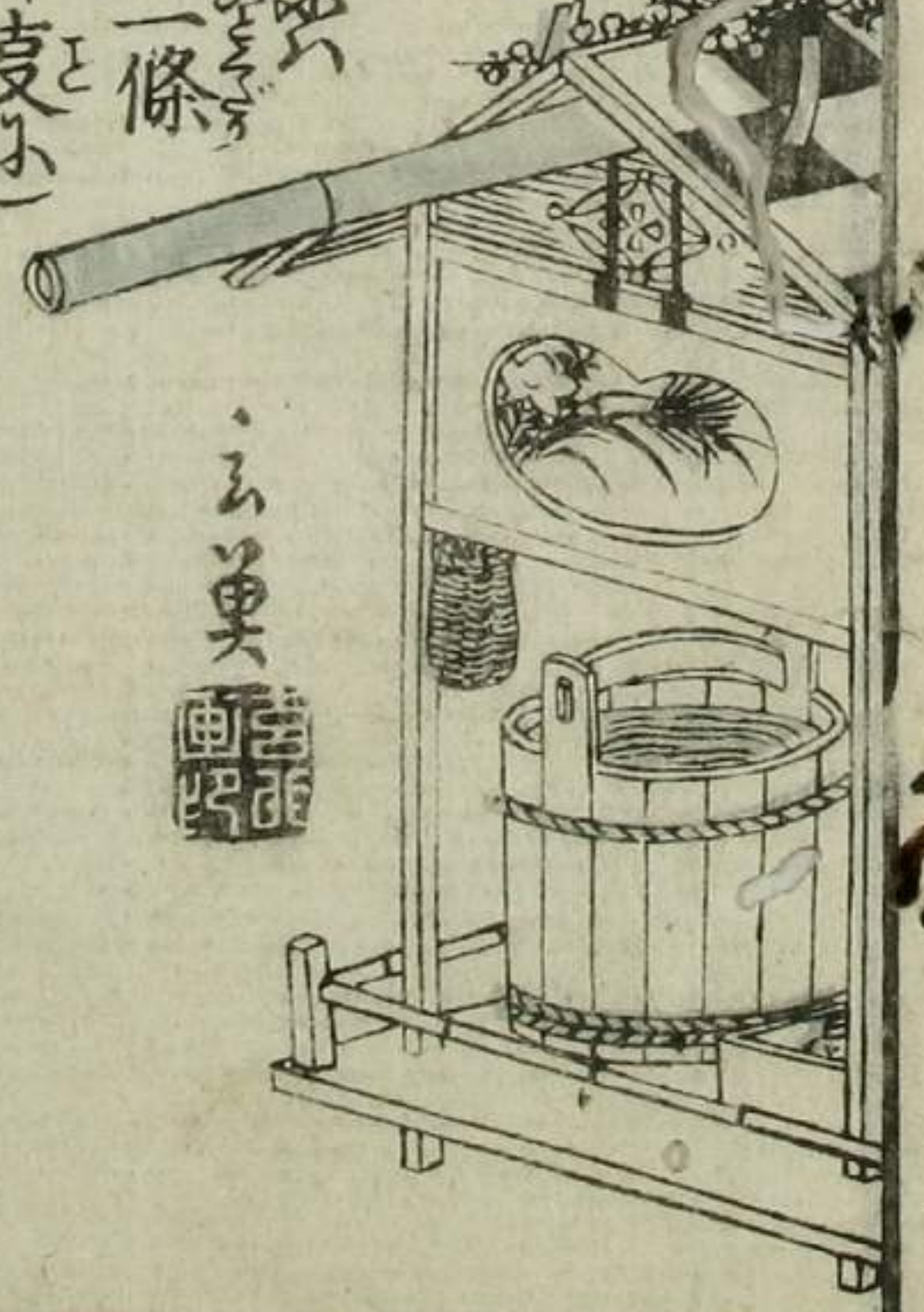




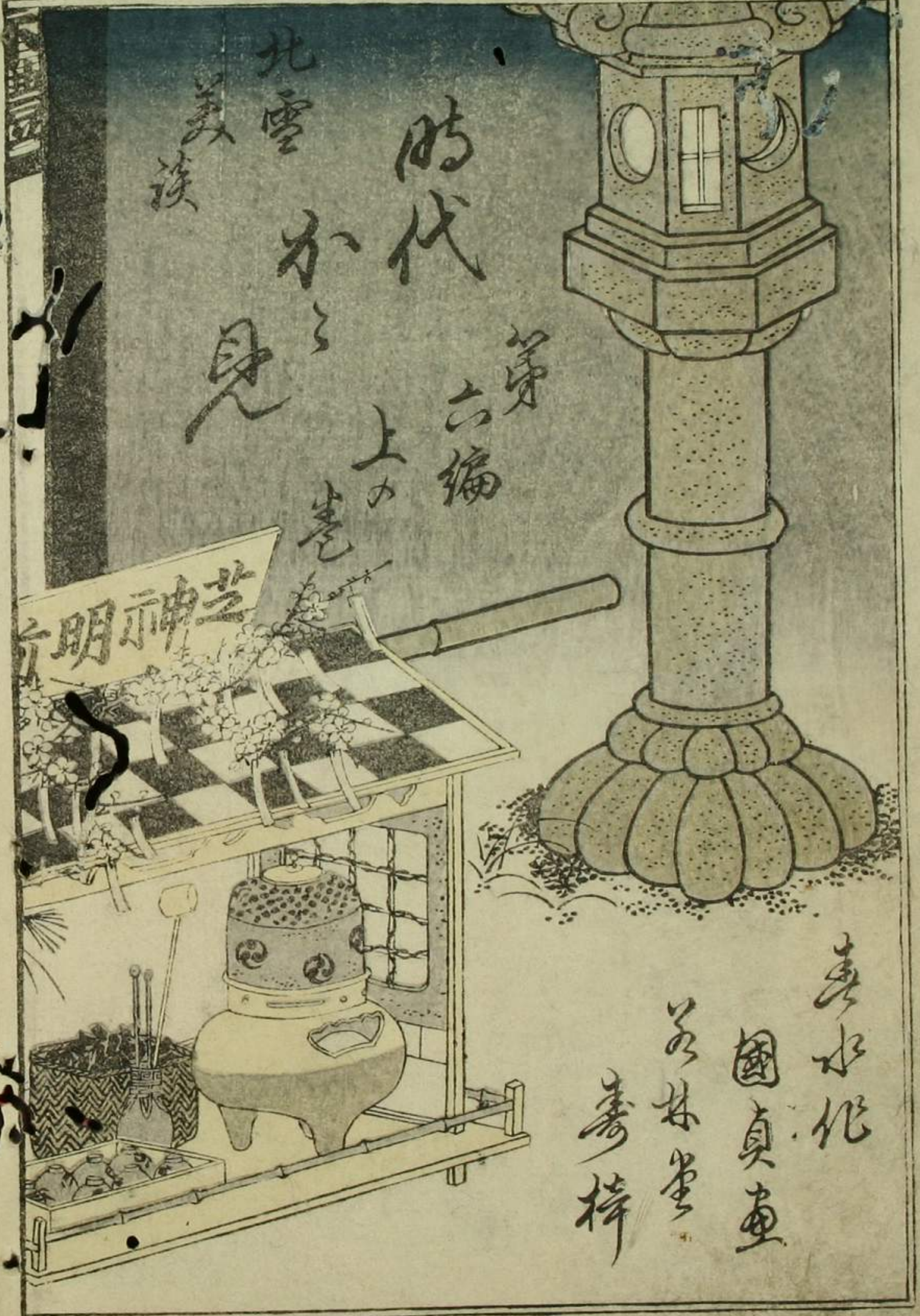
寺代六

安政三辰の孟春 烏永春水誌

狂言話のあらひを  
北雪美談と表題小冠  
らすれど根をいふ夫ら  
夫小枝葉張そて這首小  
篠原八幡のその祭禮の一條  
ハ五編よりして讀はく支は  
あるは今更ふ緯新ら〜言ふはあ〜もどかの祭禮ハ  
名のとめて野澤丹下謀るの段より神酒小鴛鴦の血  
一海紙交へ那正方小欸むるると夫等の工小日ハ昏て  
終小思羽の傳小移は祭の模様紙一寸這口画小生〜  
國貞の筆意小助る拙作ハ枝葉小花を咲せしむるのこ



ふ更



北雪 美談  
時代  
見  
六編  
上の  
巻

鳥水化  
國貞画  
鳥林堂  
考梓



花沢本  
鳥屋万助  
街の市客

下奴  
喜作



女兒  
思羽

月  
下  
二





丹下えげ ちかひの娘女むすめ  
小秋こあき



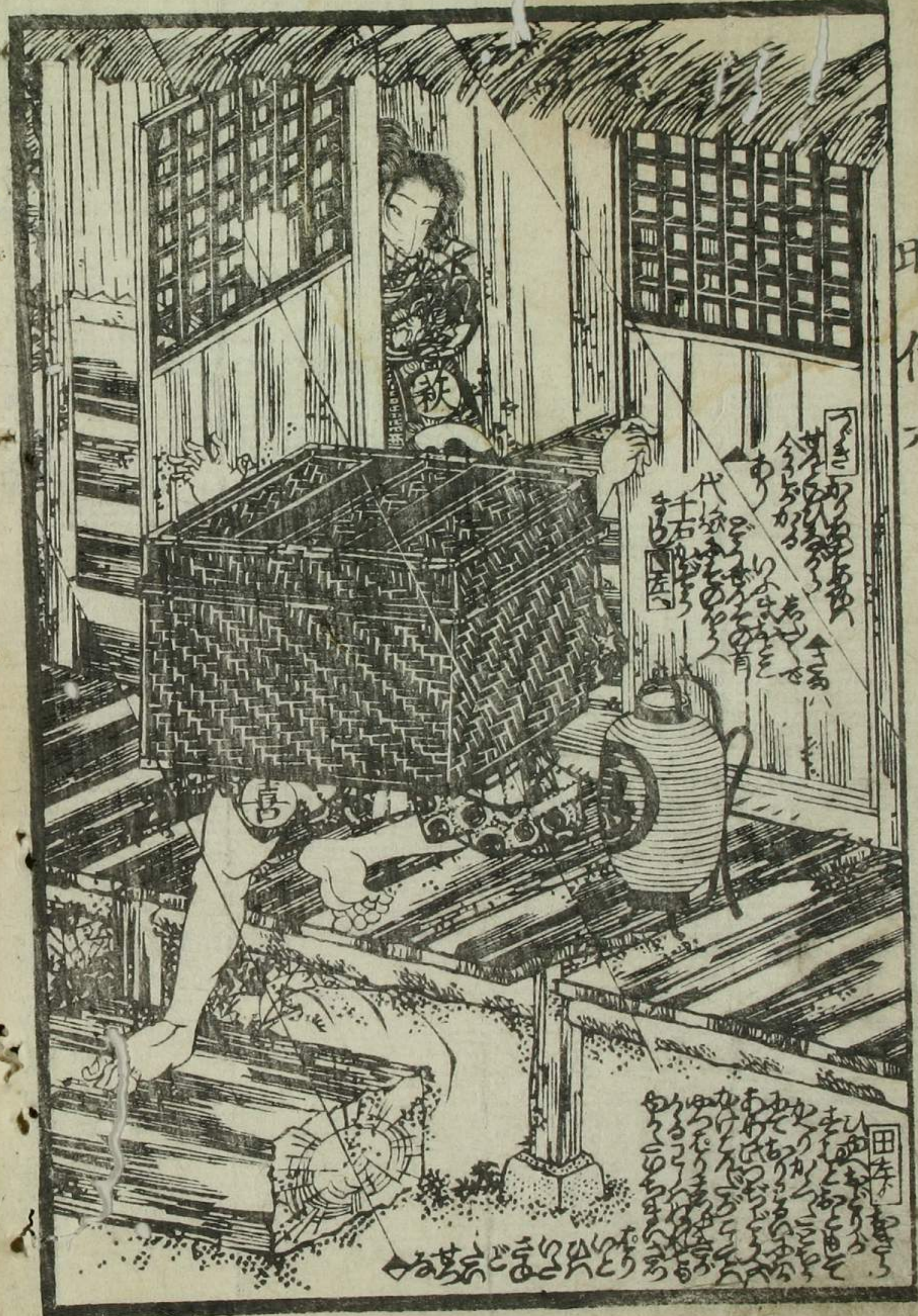
悪漢あくなんの部ぶ六む

野澤のざわの要之助えんすけ  
光照くわうしやう

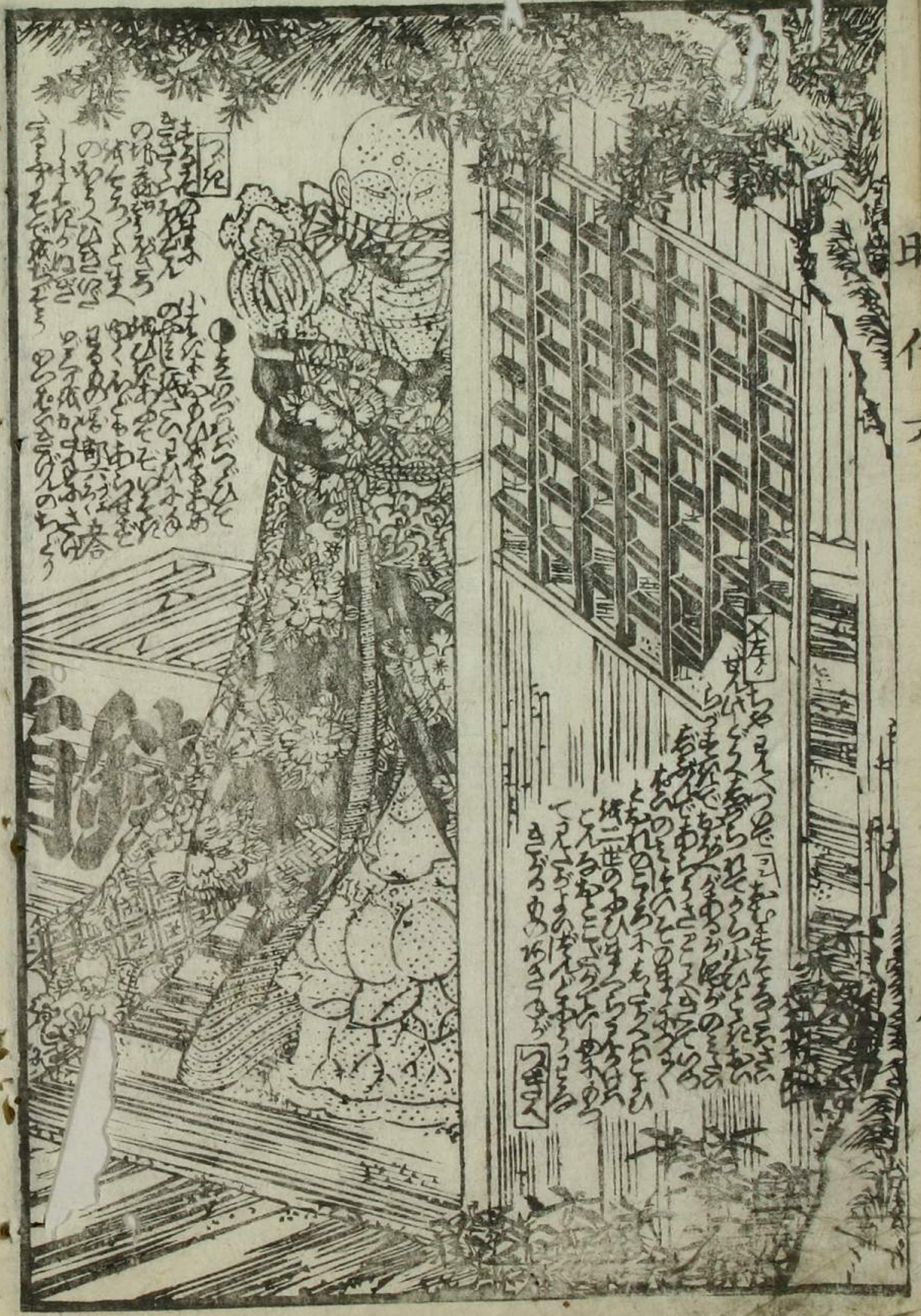


















春水作 國貞画

美談 時代加賀貝

春水作 國貞画

四編五編の湯尾刀監が正方で毒殺をまんと做つる由縁之巫が奸智をもて故意と  
 毒計を破るの段より明神の杜ふかぬ初由縁が刀監が曾中の機密を明とふり毒婦  
 小笹が出身の趣は統て正方の目通とて小笹が流駒を乗るより小笹白糸が試合の二段  
 終小兩人召抱られて小笹の尾と改名さく白糸の根とある又かの化花坂四郎早浪が  
 怨念鴛鴦とあり由縁が奸計を助る奇談忠臣丹下を謀るの赴き六編の丹下と謀りて  
 自殺させかの鴛鴦の血を以て正方の心を亂させ根を交とるその一計丹下が養女小森  
 難美と鳥屋万助が娘思羽が救ふの可笑なる物語思羽が小森の夫要之助が  
 感暮の情態七編の思羽が戀情を募り鶏の女とるその一説白山雪若が阿貞の  
 上と相計りて刀監等が隠謀を探るの方便八編の鳥屋万助が鴛鴦と由縁が百  
 両を買んとしふより万助が義侠の一段刀監が計られ既ふ大事の破る事  
 由縁が継妖の術あり防ぎいよ多賀の騒乱ふりる

阿貞

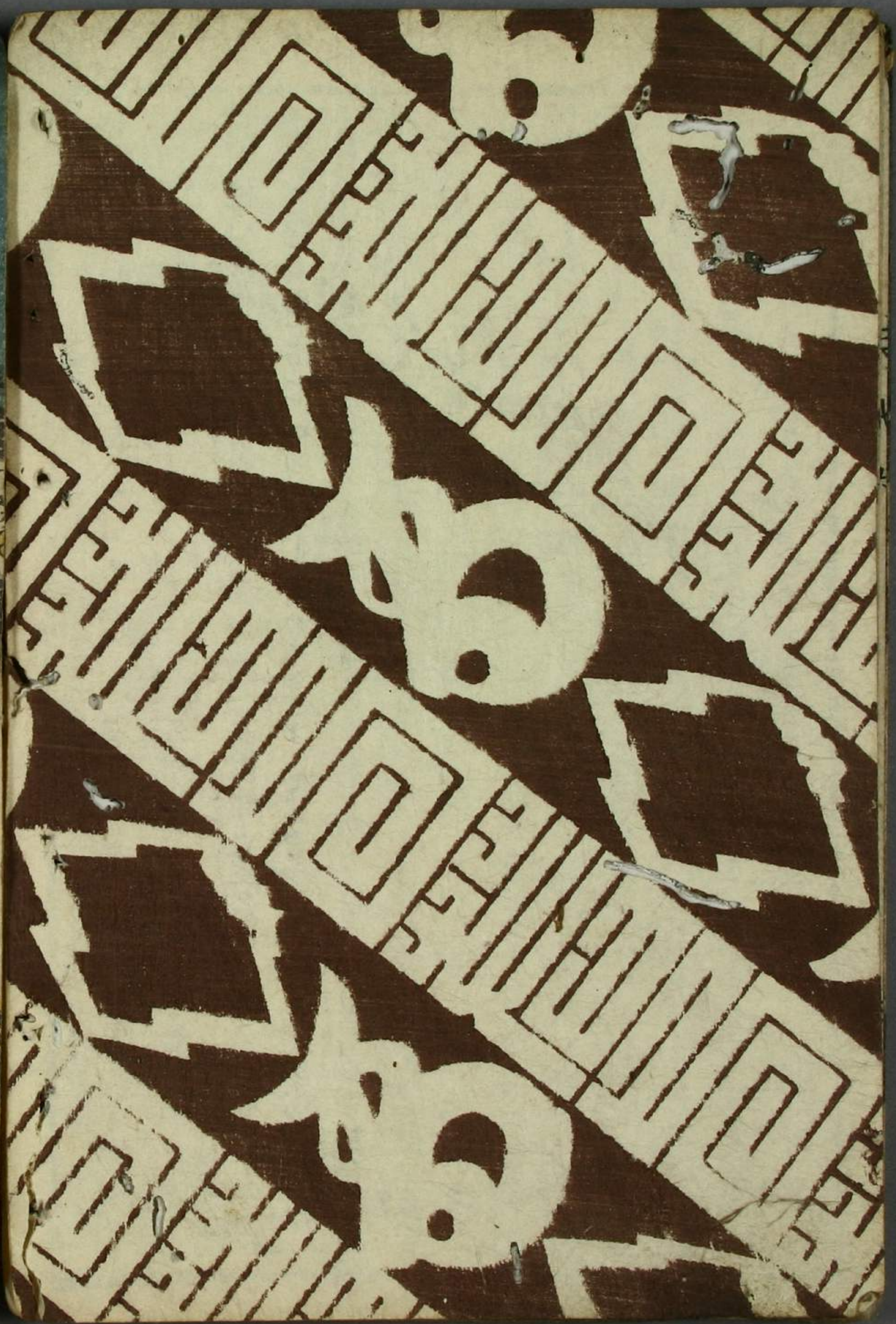


司  
若林  
若林

一壽  
國貞

六編下

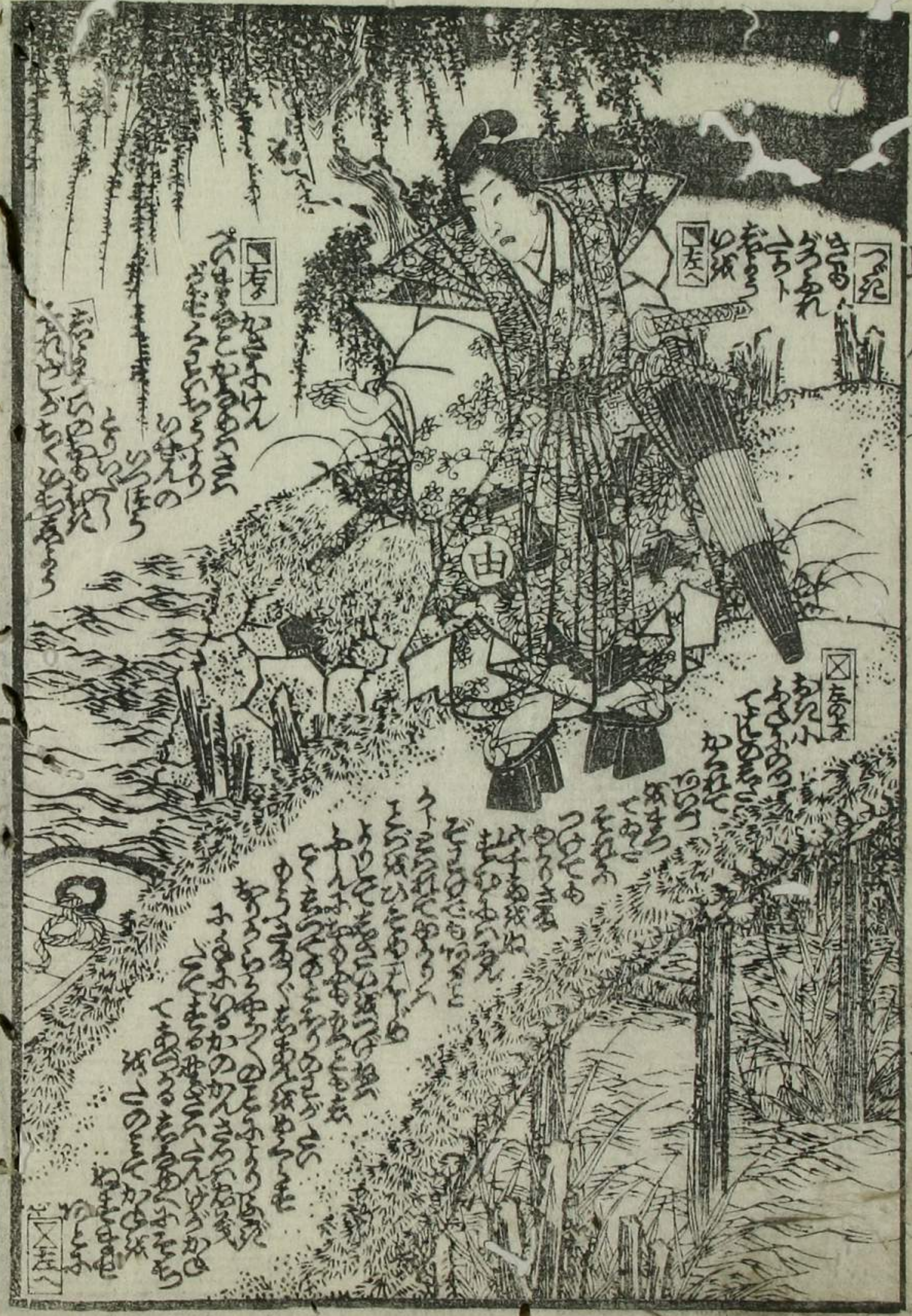
外題曲五回

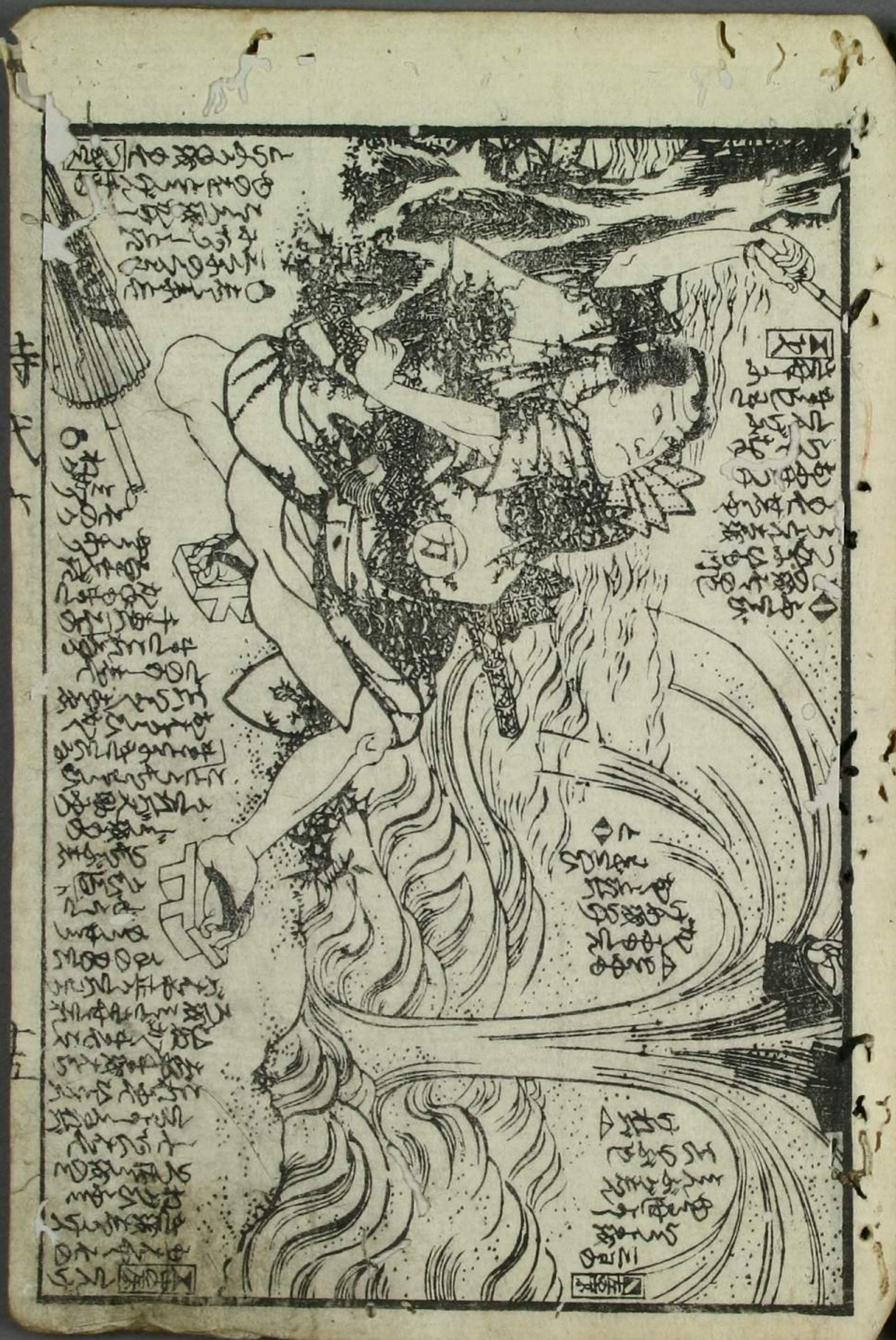


















Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) surrounding the illustration on the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) surrounding the illustration on the right page.









